

沖縄上島珈琲株式会社

ドリップバッグの自動包装機導入による生産性向上のための設備投資

珈琲のドリップバッグ製造を完全自動化した結果、一ヶ月の生産量が大幅に増加。これまで対応が難しく、お断りしてきた急な注文にも応えられるようになり、積極的な営業活動が展開できるようになった。



導入した縦型内外装三方シールガス充填包装機

課題

■ ドリップバッグの注文に応えられなかった

事業のきっかけ

当社は昭和45年に創業し、珈琲の卸事業はじめ風化した珊瑚を利用したオリジナル商品「琉球珊瑚珈琲」の製造販売を手がける。近年、手軽なドリップバッグの需要が高まっていた。しかし、ドリップバッグを一括製造できる機械を持っておらず、珈琲を充填したドリップバッグを外袋へ詰める作業やラベル貼りの作業等、一部を手作業で行っていた。そのため、どんなに頑張っても月の製造量は1000個が限界。泣く泣く注文を断らざるを得ない状態だった。今後の需要増加や販路拡大、工場機能の強化・生産性の向上を図るため、ドリップバッグの自動包装機の導入が必要不可欠だった。

成果

■ 完全自動化によって、一ヶ月の製造量が約30倍に

事業の取り組み～成果

自動包装機を導入後、ドリップバッグの製造が完全自動化された。以前は10個あたり3分半かかっていたが、導入後はたった15秒に。よって1日の製造量が5000個、月の製造量が3万個以上と、大幅な生産性向上を実現できた。これまでお断りしてきた急な注文にも余裕をもって対応できるようになったことから、積極的な営業を展開できるようになり、今後の販路拡大・売上げ向上に期待がもてる。従来の手作業ではどうしても空気が入ってしまったが、機械の場合は空気をほぼ完全に抜くことができるため、密閉度も上がる。このことは風味や鮮度などの品質向上にもつながった。

展望

■ 営業に力を入れ、県内事業者の受け皿となる

今後の展望

県内で製造したほうが費用面・品質面でメリットがある。だが、未だ手作業で製造したり、九州に発注をかけている事業者も多い。徐々にではあるが、ドリップバッグの製造依頼も増えており、当社工場の機能をもっと積極的に広報すれば、県内事業者の受け皿になれると確信している。そのためには、より充実した工場機能の強化を図ることも重要。沖縄の珈琲業界は活況だ。今後は、県内はもちろん、機会があればアジアにも「琉球珊瑚珈琲」を発信して、知名度を上げていきたい。スタッフの中には将来独立したい者もあり、互いに良い関係を築き、沖縄の珈琲業界を一緒に盛り上げていきたい。



導入した機械で生産された商品



工場兼店舗に訪れた方をコーヒーの木がお出迎え

Q 御社のモットーを教えてください

A 「give and take」。取引先やお客様はもちろん、スタッフに対しても恩返しをしたい。

代表取締役
与儀 喜一郎 さん

営業
与儀 喜太郎 さん

つむぐ × つなぐ

今後の取り組みについてお聞かせ下さい。

喜一郎さんビジョン

以前は那覇市の三越で店舗を持っていたこともあったが、現在は個人のお客様と直接交流できる場を持っていない。小売に力を入れたい若手の声もある。将来、工場の一角にある喫茶スペースで、美味しい珈琲の淹れかた教室などをアットホームに開き、まずはお客様と直接つながることから始めて、小売事業の展開についても見据えていきたい。

喜太郎さんビジョン

当社は卸がメインだが、今後は小売にも力を入れたい。ありがたいことに同世代の社員も多く、沖縄の素材を使って付加価値の高い珈琲をつくりたいね、といつも話し合っている。近年、沖縄では自家焙煎の個人店が増え、ライバルも多くなったが、個人店にはない当社の強みを活かして、卸と小売の両輪で頑張りたい。

飲料・たばこ・飼料製造業

✓ 沖縄上島珈琲株式会社

〒901-0225
沖縄県豊見城市豊崎 3-61
tel.098-851-1175 fax.098-851-1149

・代表者名	代表取締役 与儀 喜一郎	・設 立	昭和45年6月
・資 本 金	3,965万円	・従業員数	10名